

第5回 福岡市立こども病院の移転に関する小児2次医療連絡協議会  
(旧 福岡市立新病院に関する小児2次医療連絡協議会)  
議事要旨

- 日 時 平成23年11月4日(金) 16時00分~17時35分
- 場 所 アクロス福岡 2階 セミナー室1
- 出席委員 独立行政法人国立病院機構九州医療センター院長 村中委員  
国家公務員共済組合連合会浜の町病院院長 安井委員  
地方独立行政法人福岡市立病院機構  
福岡市立こども病院・感染症センター院長 福重委員  
福岡市医師会会長 江頭委員  
福岡大学病院長 内藤委員  
福岡地区小児科医会監事 下村委員  
(進藤委員欠席による代理出席)
- 福岡市保健福祉局理事 恒吉委員

議題1 規約の改正について

- 事務局から「資料1 福岡市立こども病院の移転に関する小児2次医療連絡協議会規約(案)」に沿って説明を行った。
- 規約の改正について原案通り決定した。

議題2 委員長の選出について

- 委員長には江頭委員を選出した。
- 江頭委員長が村中委員を委員長代行に指名した。

議題3 こども病院の診療実績について

- 福重委員が「資料2 診療実績」に沿って説明を行った。
- 〈福重委員の説明の概要〉
- ・平成22年度の入院患者、外来患者ともに地区別では、西区が最も多く、次いで早良区、東区の順に多かった。また、入院患者のうち、市内からの患者は半数であり、4分の1は県外から来ている。
  - ・地域医療の現状を反映していると思われる小児感染症の、中央区、早良区、西区からの入院患者数は1日平均15人ほどである。このうち、地域医療の範疇に含まれない、心臓病などの基礎疾患をもっている患者数は、2割ほどと思われる。

〈委員からの主な意見〉

- ・ 今回の資料で大まかな概観は理解できたが、市民に理解してもらうため、また今後、確保策を検討していくためには、これだけでは足りない。こども病院における高度医療分野と地域医療分野のそれぞれの具体的な数字、また、実際に市西部地区の地域医療がどのくらい影響を受けるのか、きちんとした数字を出す必要がある。その際には、福大病院が小児科を増床したことによる影響や、市西部地区から移転後のこども病院に来る患者数の見込み、西区、糸島の人口増に伴い市西部地区の小児2次医療患者が増える可能性なども加味する必要がある。
- ・ 東区では病院の閉鎖が続き、開業医は小児2次医療について危機感を持ち、こども病院が早く移転してきてほしいと希望している。
- ・ 小児医療を受ける側にとっても、提供する側にとっても、2次病院の医師を集約化した方が医師の疲弊を防ぐ点などで良い。
- ・ 医師の集約化にあたって、まず、それぞれの2次病院の特徴を踏まえ、行政、医師会も含め、各2次病院の役割を考えなければいけない。
- ・ 医師の集約化については、近くに小児科医がいてほしいという患者の望みとは違う面もあるので、調整をとらないといけない。
- ・ 今、目指している新こども病院では、今よりも多くの小児科医を集めることになるので、2次病院への医師の集約化となれば、福岡市全体としても小児科医を確保していくことが必要である。
- ・ こども病院に来る患者数は、東区からが増えている感じがする一方、城南区、西区、南区では落ち着いている。
- ・ 小児2次医療を論ずるにあたって、1次医療を提供する側の期待・要望も踏まえる必要がある。

#### 議題4 福岡市小児医療情報ネットワークシステムに関するアンケートについて

○事務局から「資料3 福岡市小児医療情報ネットワークシステムに関するアンケートについて」に沿って説明を行った。

〈委員からの主な意見〉

- ・ 小児医療情報ネットワークシステムは、西部地区における小児2次医療提供体制を論じるときのツールになる。
- ・ アンケートの結果については、今が平静時で、インフルエンザも流行ってなく、小児1次医療を担う開業医などが困っていないという状況を反映していると思う。
- ・ これから冬場になると、小児医療情報ネットワークシステムを見る状況が増えてくると思う。
- ・ 小児医療情報ネットワークシステムでインフルエンザなどの疾病の流行状況も多少は把握できる。

## 議題5 その他

○本協議会の今後の進め方としては、24 年度中を目途に一定の方向性を出し、その後は進捗管理をしていくことを確認した。

○次回は平成 24 年 2 月を目途に開催することを確認した。